

第70回ゼミナール海外研修旅行(タイ)を終えて(学生レポート)
(2006年8月14~24日 @タイ・バンコク/クイブリ自然公園)

日本文化,そして自分について新しい発見のあった10日間

3回生 白井絵理奈

8月14日~23日までタイに滞在し、バンコクで17~20日に開催された第五回国際保健医療行動科学会議(谷口文章先生/大会実行委員長)に、その後エコ・ツアーに参加させていただきました。そして、この会議のお手伝いをさせていただいたことで、大きく分けて3つの事を学んだと思います。それは、1つのことをするのに、何倍もの下準備がいる事。年配の方、普段接することがない方との出会い。最後まで推敲を続けより良い物を目指すことです。

まず、会議のために何ヶ月も前から、会議の内容以外にも、宿泊施設、エクスカージョンなど、参加される方が不自由なく過ごせるように、見えないご苦労があったと思いました。現地に着いて、ホテルに宿泊できること、エクスカージョンの移動で使うバスの手配、パンフレット、ポスターなど、当たり前のように利用していたものの背景に、先のことを見据えた下準備があったことに気づきました。また、会議が始まった後も参加者の方が困られないように、張り紙を作成されたり、名札にそれぞれに意味のある色のしるしを付けたものに作り変えるなど、臨機応変な対応の必要性を感じました。多くの人を動かすためには、合理的に最初の段階から最後のことを考えることが重要なのだと思いました。

また、今回多くの先生方とお会いすることができました。渥美和彦先生(東京大学名誉教授、日本統合医療学会・理事長)や、谷 莊吉先生(小松病院・名誉院長)、宗像恒次先生(日本保健医療行動科学会・会長)など、私たち学生とも気さくにお話くださりとても光栄でした。しかし、私たちの行動や言葉遣いに多々、失礼なことがあったと思います。このことで、普段からの習慣を見直さないといけないと感じました。

そして、私たちも学生会議に力不足ながら参加させていただきました。前日まで資料が完成せず最後の一踏ん張りの大切さを痛感しました。今回私たちのために場を設けていただいたこと、発表させていただいたこと、谷口先生や渡辺愛理さんにご指導していたこと、自分たちのことで精一杯で、いろんな方に甘えていたと思います。物事に終わりはなく最後の最後まで粘り、よいものに仕上げていくことはしんどい事ですが、そこでどれだけ粘れたかが後の達成感の大きさに変わるのだと思いました。

この滞在期間、私は記録係として写真を撮影していました。今まではほとんど人物しか撮影したことがなく、公式な場で使用できる写真、記録として残す意味がある写真をとるには多くのコツがありました。最初はどの場面が重要なのか、記録としてどの場面が必要なのか、日本に帰って何に使用するのかを考えながら撮影しました。この時に発表原稿のパワーポイントの写真を参考にしたり、天野さんが撮影されている場面は撮影するようにしました。徐々に良いアングルや、シャッターを押すタイミングをつかみ楽しみながら撮影していました。写真をとるという行為から、次に何が起こるかを想定し、先回りしたり、動植物を同じ目線に立ってみるなど、新しい視線に立つことができたと思います。またレンズを通した世界に感動したこと、気持ちを載せるのは難しく、そこにこだわりが生まれたと思います。

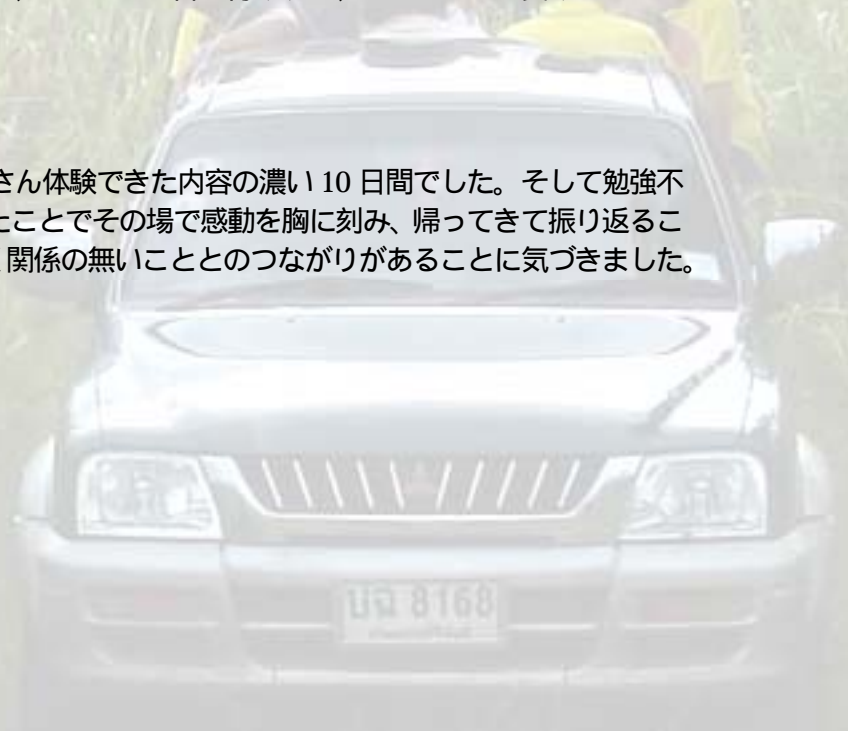
また、タイと日本の文化の違いを大きく感じました。同じアジアの国ですが、出会う人、出会う人が私たちに挨拶をして下さり、親切な方ばかりでした。時間の流れもゆっくりしていて、私たち日本

人がせかせかと時間ばかり気にして見えてない、大事なところを大切にされているように感じました。

クイブリ国立公園では、大自然の中で体の中が一掃されたように感じました。野生のゾウに出会えたとき、完熟のパイナップルを食べた感動は一生の宝物だと思います。私は小さなころから空を見るのが大好きでした。クイブリ国立公園でみた天の川、青空は本当にきれいでした。

エクスカージョンで行ったビハーラでは、エイズの実態に触れました。私は国際理解の授業でタイでのエイズ問題について学んでいました。タイに観光に来た日本人が昼間から売春をしている事実があること、展示されているミイラの横にあった説明にセックスワーカーという表記が多かったことから、私たちの考えている以上にタイでのエイズ問題が深刻であり、日本も他人事でないことを感じました。多くのミイラが展示されていましたが、それらから目を背けずに、メッセージを受けとることが重要だと思いました。

普通の旅行では経験できないことをたくさん体験できた内容の濃い10日間でした。そして勉強不足を痛感した日々でした。今回タイに行ったことでその場で感動を胸に刻み、帰ってきて振り返ることで初めて理解できることがあること、全く関係の無いこととのつながりがあることに気づきました。



18日夕方からのウェルカム・パーティ@プラナコーン=ラジャバト大学 Traditional House にて ..宴たけなわ ...
タイの伝統舞踊と一緒に踊りました



18日午後に行なわれた研究発表の一コマ。日頃、私たちが行なっているゼミ活動について発表しました。タイの研究者の方々からも沢山の質問をいただき、大変勉強になりました。前日は準備のため徹夜 でした...

20日に行なわれたフェアウェルパーティにて。会議4日間もあっという間でした。無事終わり、和やかな雰囲気の中で。会議に参加された先生方に貴重なお話を伺ったり、タイの学生やスタッフさんと文化交流を楽しみました



旅 程

1日目	8月14日	関西国際空港集合 TG623 便→バンコク着/夕食会
2日目	8月15日	TV会議システム・テスト/会議準備日
3日目	8月16日	(午前)会議準備 (午後)フリータイム&ショッピング
4日目	8月17日	エクスカーション：ピハラ&アユタヤ遺跡
5日目	8月18日	第5回国際保健医療行動科学会議/ウェルカム・パーティ
6日目	8月19日	基調講演・シンポジウム・サテライトシンポジウム
7日目	8月20日	▼サテライトシンポジウム・ワークショップ・フェアウェルパーティ
8日目	8月21日	エコツアー(クイブリ自然公園)*途中、チャムムの海岸に寄って少しだけショッピング 夕方、公園に到着
9日目	8月22日	(午前)トレッキング(午後)ツアー バン3台で野性の象を追うこと3時間
10日目	8月23日	バードウォッチング お昼前に公園を出て、バンコクに戻る途中、ショッピングモールなどで最後の買い物 フェアウェルパーティ@プラナコーン大学グランドビューホテル/レストラン TG622 便：ドンムアン国際空港発(深夜便) → → → → →
11日目	8月24日	関西国際空港到着.....解散式

会議終了後 21~23 日までバンコクから南に移動し、クイブリ公園へエコツアーに行きました。昼間はトレッキングを楽しみ、夜は環境教育プログラムについての講演やワークショップ。その後は大学の先生・学生、公園のスタッフさんと宴会。早朝からバード・ウォッチング...とめいっぱい自然を満喫！一番印象に残ったのは、野性の象に会えたことでした!!タイの自然のスケールを実感した瞬間でした。